

宮城教育大学における教員養成教育の軌跡と展望 (4)

－イノベティブ・ティーチャー養成・育成アンケートの分析から－

*村上由則・**松岡尚敏・***出口竜作・**堀田幸義・
****石澤公明・*****小針善誠

Locus of Teacher Education in Miyagi University of Education (Part 4)

MURAKAMI Yoshinori, MATSUOKA Naotoshi, DEGUCHI Ryusaku, HOTTA Yukiyoishi,
ISHIZAWA Kimiaki and KOBARI Yoshitomo

要旨

宮城教育大学では、地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)において、「生涯学び続け深化する教員」養成・育成を目標に掲げ、宮城県教育委員会および仙台市教育委員会と本学とが協働し、その育成のためのシステムづくりについて協議を重ねてきた。その取り組みの一環として、「教員の養成と研修に関するアンケート」調査を平成27年度および28年度に実施し、教員の生涯にわたる専門性発達をめぐる課題について考察を試みた。

平成29年度には27年・28年度に実施した調査方法を改良し、現職教員800名以上から回答を得た。また本学教育学部4年生を対象とし、現職教員と比較可能な内容・方法で同様のアンケートを実施した。その分析を行ったところ、27・28年の調査で明らかとなった傾向を数量的に裏付ける結果を得た。今後この結果が、29年度から始動している宮城県ならびに仙台市教員育成協議会における教員育成指標の検討、また本学の教員養成に何らかの形で資することを願っている。

Key words : 教師教育、教員養成教育、学び続ける教員、キャリアマップ

I. はじめに

宮城教育大学は、宮城県教育委員会ならびに仙台市教育委員会と連携・協働で学部における養成段階から採用後の10年研修の段階までをくくりとした、養成と研修の機能連携を目的として、「地(知)の拠点事業」(平成25年度-29年度)に取り組んできた。

その取り組みの一つとして平成27年度・28年度には、初任者研修・5年経験者研修・10年研修の各参加者を対象に、「教員に求められる資質・能力」として「教科指導」「生徒指導・教育相談」「学級・学校づくり」

「教員に求められる前記以外の資質・能力」「社会人としての基礎的素養」の各項目群に関して調査した。回答者に各項目群について「調査時点での資質・能力の自己評価」および「新任時に身につけておくべき資質・能力」を「課題の有無」の2件法で回答を要請し、その結果の概要を本紀要において報告した(松岡・村上・出口・堀田, 2017および2018)。

そこから明らかになったのは、①若手教員が、教員としての中心的職務である教科指導と生徒指導に課題を感じている状況がある、②「発達障害と考えられる幼児児童生徒への指導・支援」「特別支援教育」「不登

* 大学院教育学研究科
** 社会科教育講座
*** 理科教育講座
**** 名誉教授
***** 戦略プロジェクト

校・学校不適応状態の幼児児童生徒への指導・支援」に課題を感じている教員が各研修種で割合が高い、③新任期の教員は「授業を展開していく実践力」「学級づくりの手立て」といった課題に直面している、④「教科や授業論に関する学術的専門知識」「子どもの成長・発達に関する学術的専門知識」に課題を感じている、⑤「養成期・採用時に身につけておくべき資質・能力」として現職教員が考える内容は新任期の教員が直面している課題とほぼ共通している、といった内容である(松岡他, 2017および2018)。

このような分析を受け平成29年度では、上記の養成・育成上の課題をより明確にするために、「教員の養成と研修に関わる意識」アンケート調査を学部4年生、初任者研修・5年経験および10年研修参加者を対象に実施・分析した。ここでは調査結果の概要と、養成および各年次研修間相互の関係を報告する。

II. 方法

1. 対象

平成29年度宮城教育大学教育学部4年生(教職実践演習出席者)、平成29年度に宮城県および仙台市教育委員会の実施した初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修の参加者を対象とした。そのうち下記のアンケートを回収でき、すべての項目が記入・記載されていた、学部4年生(319名)、初任者研修(321名)・5年経験(329名)・10年研修参加者(209名)を集計・分析の対象とした。対象者の男女比は男48.3%(562名)、女51.7%(601名)であった。

現職教員(859名)についてみると、所属教育委員会は、宮城県教育委員会が66%(567名)、仙台市教育委員会が34%(292名)である。所属学校種は、小学校46.8%(402名)、中学校29.8%(256名)、高等学校17.8%(153名)、中等教育学校0.2%(2名)、特別支援学校5.4%(46名)である。宮城教育大学の卒業・修了生は34.0%(292名)であり、宮城県145名、仙台市147名であった。

2. 調査内容

①調査対象者の基本情報(研修種・所属教育委員会・性別・勤務校など)、②調査時点における「教員に求められる資質・能力」の自己評価、③新任時に身につ

けておくべき「教員に求められる資質・能力」のそれぞれについて、「ほとんど身につけていない」・「あまり身につけていない」「どちらともいえない」「少し身につけている」「かなり身につけている」の5件法により調査した。なお資質・能力は、「教科指導」「生徒指導・教育相談」「学級・学校づくり」「教員業務にかかわるその他の資質」「社会人としての素養」の5項目群から構成されている。このうち②・③とも「教科指導」「学級・学校づくり」「教員業務にかかわるその他の資質」は6つの下位項目から、「生徒指導・教育相談」「社会人としての素養」は7つの下位項目からなる。回答は下位項目の選択肢のマークシートを塗りつぶす形式であり、加えて、教員養成・研修の在り方について、自由記述での回答を要請した(付録1:学生用アンケート, 付録2:現職教員用アンケートを参照のこと)。

3. 手続き

教育学部4年学生は「教職実践演習」全体会において、現職教員は宮城県・仙台市両教育委員会の主催する各年次研修開催時に、アンケートを配布・記入・回収することを基本とした。その場で記入・回収できない場合には、配付時に使用した封筒にて別納郵便扱いで回収した。回収した調査用紙は、マークシートの読み取りとCSV形式ファイルへの変換、自由記述のテキスト入力を専門業者に依頼した。

III. 結果と考察

1. 養成段階・各年次研修段階の結果概要

図1は、学部生、各研修参加者のアンケート調査結果の概要である。5件法尺度による評定であり単純な比較はできないが、学部学生・現職教員の各段階の研

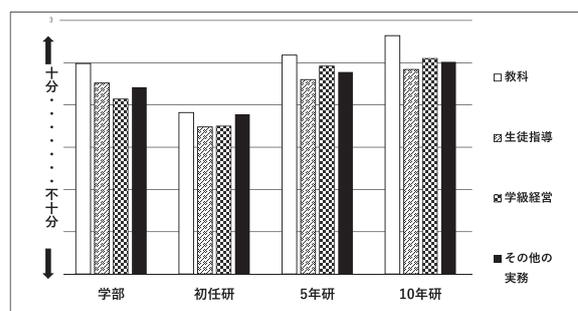


図1 アンケート結果の概要

修参加者の質問項目群に対する大まかな回答傾向を把握することができる。

全ての回答者群において、「教科指導」項目群は他項目群より評定が相対的に高い。逆に「生徒指導」「学級経営」関連項目群は、全回答者群で低い傾向にある。回答者群間を大まかに比較すると、「初任研参加者」の評定が全項目で低く、この傾向は、教員になる前の段階の学部4年生と比較しても低い傾向を示す。この傾向は、上記の先行研究(松岡他, 2017・2018)で示されている傾向と同様である。

2. 養成段階・各年次研修段階間相互の関係

アンケート項目群の中でも、教員業務の中心と想定される「教科指導」「生徒指導」「学級経営」の質問項目(19項目)において、学部学生と研修の各段階の回答傾向について、ノンパラメトリック検定(SPSS, Ver.23使用)で多重比較を行った。その結果、19項目中「学部学生-初任研参加者」で17、「学部学生-5年研参加者」で8、「学部学生-10年研参加者」13の各項目で有意差($p<0.05$)を確認した。図2-図10は、上記の19項目のうち特に差の大きい9項目について、学部生と初任研参加者、5年研参加者、10年研参加者、それぞれの回答者群間の関係を図示したものである。初任者の自己評価が最も低く、5年・10年と経験を積るにしたがって、上昇する傾向を示す。

学校における教員としての実践や教育委員会等が開催する研修会、学校内の研修を積み重ねることで、教員の資質・能力の自己評価が高まるのが推定される。

「初任研参加者」と「5年研参加者・10年研参加者」との違いに関して検討する。「教科指導」の質問項目群において特に差が大きいのは、「授業展開」と「学習

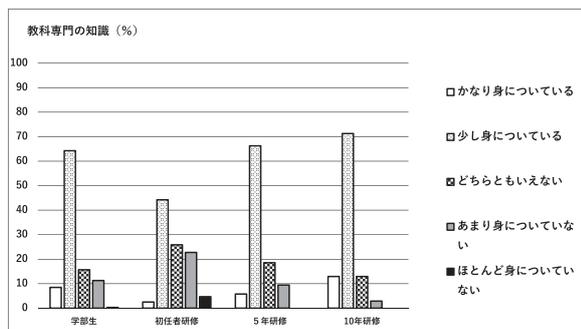


図2 「教科に関する専門知識」自己評価

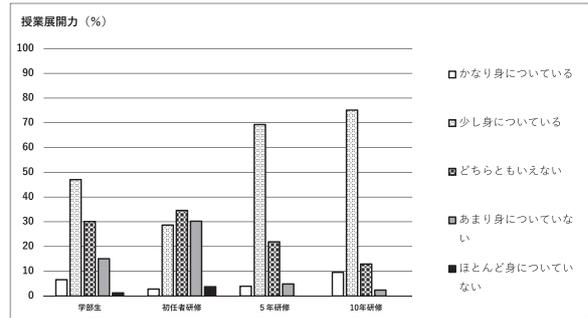


図3 「授業を展開していく力」自己評価

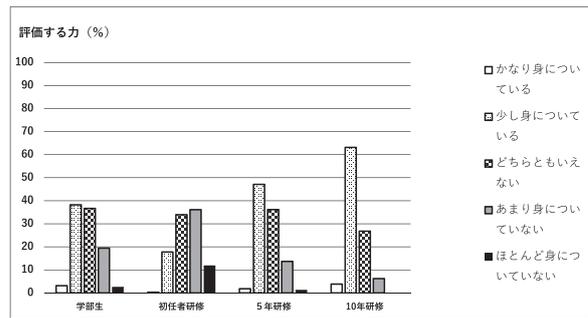


図4 「学習成果を評価する力」自己評価

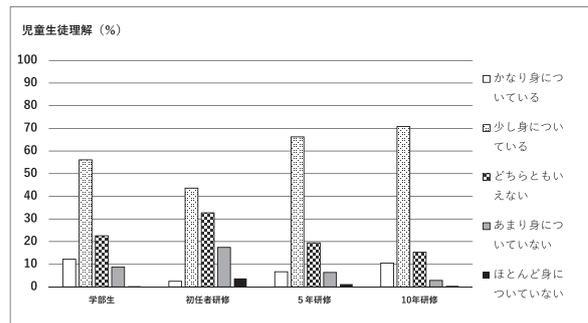


図5 「幼児児童生徒を理解する力」自己評価

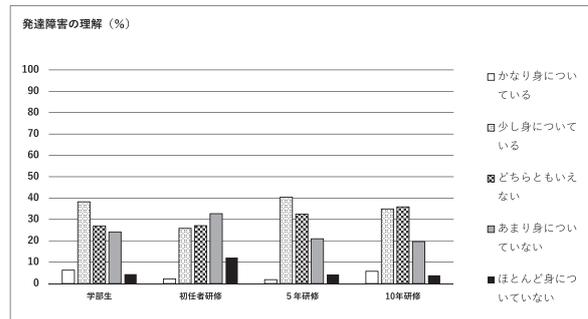


図6 「発達障害児を指導・支援する力」自己評価

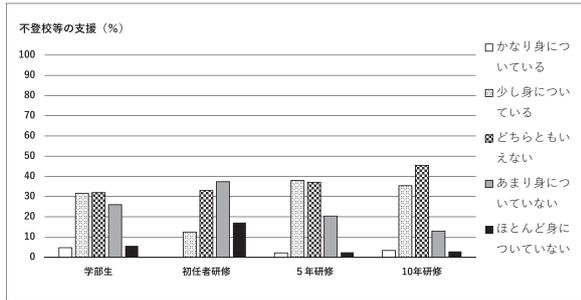


図7 「不登校児等を指導・支援する力」自己評価

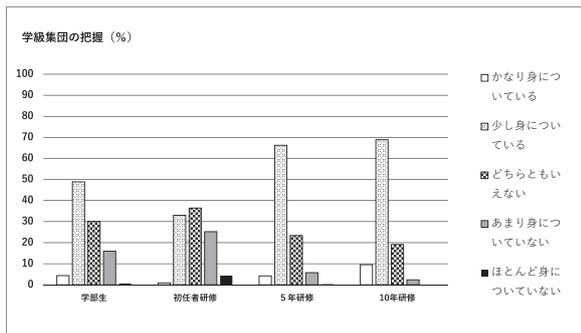


図8 「学級集団を把握・理解する力」自己評価

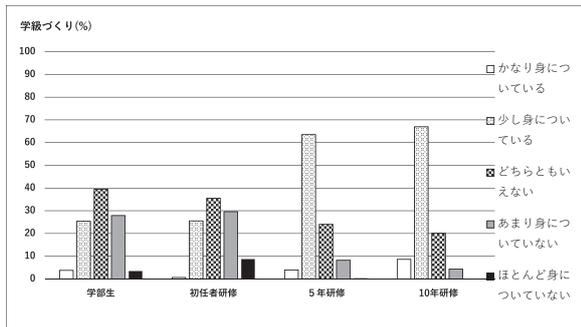


図9 「学級づくりの力」自己評価

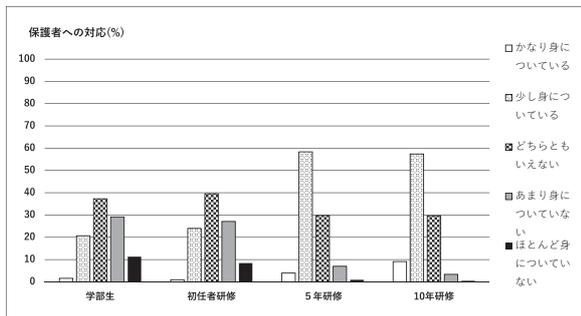


図10 「保護者への対応する力」自己評価

成果の評価」に関する項目である。教科専門の力は、相応に有していると感じているようであるが、授業を展開し、幼児児童生徒の学習成果へと結びつける力量について、不安を持っていることが分かる。

「生徒指導および教育相談」の項目群の中で、「初任研参加者」と「5年研参加者・10年研参加者」との間で差が大きいのは「幼児児童生徒理解」に関してである。教育実習等で子供たちと触れ合う機会が有しているが、それは教育実習生と実習生を受け入れる学校・学級の児童生徒との関係であり、担任等と児童生徒といった一定の深い対人的・教育的関係とは異なる性質のものとも考えることもできる。一方、「発達障害児への指導・支援」「不登校・学校不適応への支援」については、難しい課題であるとの認識が回答者全般にあると考えられる。

「学級経営・学校経営」の項目群の中で、「初任研参加者」と「5年研参加者・10年研参加者」との間で差が大きいのは、「学級集団の把握」「学級づくり」「保護者への対応」である。これらは一般的に現職教員にとっても難しい要素を含む課題であり、初任者にとっては、かなり手強い現実的課題であると容易に想定できる。「学級集団の把握」「学級づくり」は、ひとり一人の子どもの教科学習を促すこと、生活指導上の課題を改善することなど、といったある意味で「焦点化し得る取り組み」とは異なる。「学級づくり」は複数の子どもから成る集団、さらにはその集団と教員が、ある種の方向性を持って、要素の塊である集団を目的を有した組織体へと構造化していく作業プロセスである。この組織体は、個々の子ども個人には還元できない自律的な動きをする「生き物」である。初任研参加者の多くは、児童生徒時には構成要素として組織体に組み込まれてはいたであろうが、それを構造化する営みそのものにはほとんど係わりをもったことがあるとは言えない。教員となって初めて、この複雑で難しい営みである「学級経営」を行う立場を経験する。「学級経営」は、大学における学術分野としては取り扱うことが難しいが、学校教育の現場では喫緊の課題となる領域と考えられ、養成・研修の初期の段階でも十分考慮されるべきものであると考えられる。

3. 学部学生・各研修段階における変容

年齢的にも、また、経験・実績が比較的近いと想定される「学部生－初任研参加者」を統計的に比較すると、32項目中29項目で認識の違いがある。一方、「学部生－5年研参加者」の意識傾向は似通っている。この点から、初任者は、学校現場における自らの取り組

むべき課題の難しさを強く意識している傾向があることが示唆された。上記で述べたように「教科指導」「生徒指導」「学級経営」の質問項目(19項目)に限定すると、「学部学生-初任研参加者」間で回答傾向が最も大きく異なり、「学部生-5年研参加者」では類似した傾向に変容する。そして「学部生-10年研参加者」では再度、回答傾向の違いが拡大する。

初任研参加者から5年研参加者、さらに10年研参加者といった具合に、現職教員としての経験を経て、徐々

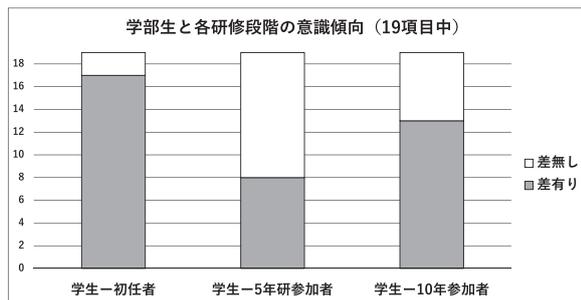


図11 学部学生と各研修段階の意識傾向の差

にさまざまな課題に対応できる資質・能力が形成・促進されていくことは、一般的な想定範囲である。

一方、学部学生の「資質・能力」の自己評価が初任研参加者と有意な差を示すことは、養成段階における学生の「教員となっていく資質・能力の自己評価」が高いことであり、言い換えれば養成期を終えて教員として入職する直前の自信と充実感を示している。一方、採用・入職後の各研修段階における回答傾向と照合して検討すると、松岡他(2017・2018)の記述内容の分析にある「初任者として教育現場で遭遇・体験するさまざまな困難・課題と養成段階の内容・方法との乖離を示唆してる」ことを数量的に確認したことになる。

新人教員は「自信をもって初任地に赴任するが、長い期間を置かずに、現実の厳しさを認識する」ことになる。この「初任地で経験した厳しさ」を、その後5年間の勤務校での経験や支援、各種研修により徐々に克服してゆき、10年後には学部生のもつ意識とは違った傾向と自信をもった教員となっていくことが示唆される。これらから、初任から5年間の各研修と学校現場での支えと学びの重要性が推測できる。

一方、大学における養成については、学生に現実課題の厳しさを認識を促すには至っていないことも示している。学生は「根拠の十分とは言えない現状認識と

自信」を持ち翌年度から入職するが、その反動と思われる自信喪失にあまり時間を置かずに陥る可能性を排除できない。学部の教員養成段階では、本稿で確認したようなエビデンスを踏まえた、シラバスの構成、学生指導・支援の内容・方法の検討も必要と考えられる。

IV. 文献

松岡尚敏・村上由則・出口竜作・堀田幸義(2017):宮城教育大学における教員養成教育の軌跡と展望(2):「イノベーション・ティーチャー」育成の視点から、宮城教育大学紀要, 51, 19-35.

松岡尚敏・村上由則・出口竜作・堀田幸義(2018):宮城教育大学における教員養成教育の軌跡と展望(3)-「イノベーション・ティーチャー」育成の視点から-, 宮城教育大学紀要, 52, 71-84.

***** 以下 付録 *****
 学生用アンケート
 現職教員用アンケート

(平成30年9月28日受理)

付録1： 学生用・・教員の養成と研修に関するアンケート 2017

A. 回答いただいている方についての質問です。

	初等教育	中等教育	特別支援教育	修士課程	教職大学院	
1 所属について	<input type="radio"/>					
	1年	2年	3年	4年		
2 学年	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	男	女				
3 性別	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
	小学校	中学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	幼稚園
4 志望している教員の学校種について	<input type="radio"/>					
(*中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校 中学部・高等部等の方は担当教科を書いてください)						
						*教科等 <input style="width: 200px; height: 20px;" type="text"/>

B. 以下の「教員に求められる資質・能力」の項目のそれぞれについて、現在のあなたはどの程度身についていると思いますか。5段階評価の該当箇所をマークしてください。

	かなり身についている	少し身についている	どちらともいえない	あまり身についていない	ほとんど身についていない
1 教科指導について					
a. 教科に関する専門知識	<input type="radio"/>				
b. 教科の授業展開・指導方法に関する専門知識	<input type="radio"/>				
c. 教材を解釈し、指導計画を作成する力	<input type="radio"/>				
d. 授業を展開していく力	<input type="radio"/>				
e. 学習成果について評価する力	<input type="radio"/>				
f. 授業を振り返り、再構成していく力	<input type="radio"/>				
2 生徒指導・教育相談等について					
a. 子どもの成長・発達についての専門知識	<input type="radio"/>				
b. 幼児児童生徒を理解する力	<input type="radio"/>				
c. 道徳を指導する力	<input type="radio"/>				
d. 特別活動を指導する力	<input type="radio"/>				
e. 特別支援教育の最新知識と指導・支援する力	<input type="radio"/>				
f. いわゆる発達障害と考えられる幼児児童生徒を指導・支援する力	<input type="radio"/>				
g. 不登校・学校不適応状態の幼児児童生徒を指導・支援する力	<input type="radio"/>				

	かなり身についている	少し身についている	どちらともいえない	あまり身につけていない	ほとんど身につけていない
3 学級づくり・学校づくりについて					
a. 教育の制度および経営に関する専門知識	<input type="radio"/>				
b. 学級集団を把握・理解する力	<input type="radio"/>				
c. 学級づくりの力	<input type="radio"/>				
d. 学年行事・学校行事を企画・運営する力	<input type="radio"/>				
e. 保護者からの要望に対応する力	<input type="radio"/>				
f. 地域と連携・協働する力	<input type="radio"/>				
4 そのほかの教員業務にかかわる資質等について					
a. 校務における文書作成等の技能	<input type="radio"/>				
b. 課外活動を指導する力	<input type="radio"/>				
c. 防災教育・安全教育に関する知識・技能	<input type="radio"/>				
d. 授業において ICT を活用する力	<input type="radio"/>				
e. 地域教材を開発し、活用する力	<input type="radio"/>				
f. 教師として生涯にわたって学び続けようとする姿勢	<input type="radio"/>				
5 教員として、そして社会人としての基礎的素養について					
a. 教育者としての使命感や責任感	<input type="radio"/>				
b. 子どもに対する教育的愛情	<input type="radio"/>				
c. 対人関係能力	<input type="radio"/>				
d. チーム力、協調性	<input type="radio"/>				
e. 社会性や常識	<input type="radio"/>				
f. 幅広い教養、経験	<input type="radio"/>				
g. 豊かな人間性	<input type="radio"/>				

C. 以下の「教員に求められる資質・能力」の項目のそれぞれについて、大学卒業時までどの程度身につけておくべきだと思いますか。5段階評価の該当箇所をマークしてください。

	是非とも身につけておくべき	できれば身につけておくべき	どちらともいえない	身につけておく必要はあまりない	身につけておく必要はほとんどはない
1 教科指導について					
a. 教科に関する専門知識	<input type="radio"/>				
b. 教科の授業展開・指導方法に関する専門知識	<input type="radio"/>				
c. 教材を解釈し、指導計画を作成する力	<input type="radio"/>				
d. 授業を展開していく力	<input type="radio"/>				
e. 学習成果について評価する力	<input type="radio"/>				
f. 授業を振り返り、再構成していく力	<input type="radio"/>				
2 生徒指導・教育相談等について					
a. 子どもの成長・発達についての専門知識	<input type="radio"/>				
b. 幼児児童生徒を理解する力	<input type="radio"/>				
c. 道徳を指導する力	<input type="radio"/>				
d. 特別活動を指導する力	<input type="radio"/>				
e. 特別支援教育の最新知識と指導・支援する力	<input type="radio"/>				
f. いわゆる発達障害と考えられる幼児児童生徒を指導・支援する力	<input type="radio"/>				
g. 不登校・学校不適応状態の幼児児童生徒を指導・支援する力	<input type="radio"/>				
3 学級づくり・学校づくりについて					
a. 教育の制度および経営に関する専門知識	<input type="radio"/>				
b. 学級集団を把握・理解する力	<input type="radio"/>				
c. 学級づくりの力	<input type="radio"/>				
d. 学年行事・学校行事を企画・運営する力	<input type="radio"/>				
e. 保護者からの要望に対応する力	<input type="radio"/>				
f. 地域と連携・協働する力	<input type="radio"/>				
4 そのほかの教員業務にかかわる資質等について					
a. 校務における文書作成等の技能	<input type="radio"/>				
b. 課外活動を指導する力	<input type="radio"/>				
c. 防災教育・安全教育に関する知識・技能	<input type="radio"/>				

	是非とも身に つけておくべき	できれば身に つけておくべき	どちらとも いえない	身に付けておく 必要はあまりない	身に付けておく 必要はほとんどはない
d. 授業において ICT を活用する力	<input type="radio"/>				
e. 地域教材を開発し、活用する力	<input type="radio"/>				
f. 教師として生涯にわたって学び続けようとする姿勢	<input type="radio"/>				

5 教員として、そして社会人としての基礎的素養について

	是非とも身に つけておくべき	できれば身に つけておくべき	どちらとも いえない	身に付けておく 必要はあまりない	身に付けておく 必要はほとんどはない
a. 教育者としての使命感や責任感	<input type="radio"/>				
b. 子どもに対する教育的愛情	<input type="radio"/>				
c. 対人関係能力	<input type="radio"/>				
d. チーム力、協調性	<input type="radio"/>				
e. 社会性や常識	<input type="radio"/>				
f. 幅広い教養、経験	<input type="radio"/>				
g. 豊かな人間性	<input type="radio"/>				

6 上記で取り上げられていないその他の資質・能力として、大学卒業時まで身に付けておくべき資質・能力があれば、その内容を【 】内に簡単に書いてください。

【
】

【
】

D. これまでの経験を踏まえて、大学における教員養成の在り方について、自由に意見を書いてください。

E. 「学び続け深化する教員」の視点からみて、採用後の教員研修の在り方について、要望等があれば自由に意見を書いてください。

－ アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。－

付記：このアンケートについては、個人が特定されないよう統計的に処理するとともに、個人情報取り扱いに配慮いたします。アンケートの結果は、今後の宮城教育大学における教員養成教育の検討・改善のために活用させていただくとともに、それ以外の目的には使用いたしません。また、結果の一部については、学術的情報として専門研究雑誌等に発表させていただきますことでもあります。

付録2： 教員用・・教員の養成と研修に関するアンケート 2017

A. 回答いただいている方についての質問です。

	初任者研修	5年経験者研修	10年経験者研修			
1 今回受講している研修	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	宮城県	仙台市				
2 所属する教育委員会	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
	男	女				
3 性別	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
4 勤務校について (* 中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校 中学部・高等部等の方は担当教科を書いてください)						
(1) 現在の勤務校等	小学校	中学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	幼稚園
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	*担当教科等 <input type="text"/>					
(2) これまで勤務した全ての学校等の種類	小学校	中学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	幼稚園
(* 講師等の経験も含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	*担当教科等 <input type="text"/>					
(3) 講師経験の有無と経験年数	無	1～3年	4～6年	7～10年	11～15年	16～20年
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

B. 以下の「教員に求められる資質・能力」の項目のそれぞれについて、現在のあなたはどの程度身につけていると思いますか。5段階評価の該当箇所をマークしてください。

1 教科指導について		かなり身につけている	少し身につけている	どちらともいえない	あまり身につけていない	ほとんど身につけていない
a. 教科に関する専門知識	<input type="radio"/>					
b. 教科の授業展開・指導方法に関する専門知識	<input type="radio"/>					
c. 教材を解釈し、指導計画を作成する力	<input type="radio"/>					
d. 授業を展開していく力	<input type="radio"/>					
e. 学習成果について評価する力	<input type="radio"/>					
f. 授業を振り返り、再構成していく力	<input type="radio"/>					
2 生徒指導・教育相談等について		かなり身につけている	少し身につけている	どちらともいえない	あまり身につけていない	ほとんど身につけていない
a. 子どもの成長・発達についての専門知識	<input type="radio"/>					
b. 幼児児童生徒を理解する力	<input type="radio"/>					
c. 道徳を指導する力	<input type="radio"/>					

	かなり身につけている	少し身につけている	どちらともいえない	あまり身につけていない	ほとんど身につけていない
d. 特別活動を指導する力	<input type="radio"/>				
e. 特別支援教育の最新知識と指導・支援する力	<input type="radio"/>				
f. いわゆる発達障害と考えられる幼児児童生徒を指導・支援する力	<input type="radio"/>				
g. 不登校・学校不適応状態の幼児児童生徒を指導・支援する力	<input type="radio"/>				
3 学級づくり・学校づくりについて					
a. 教育の制度および経営に関する専門知識	<input type="radio"/>				
b. 学級集団を把握・理解する力	<input type="radio"/>				
c. 学級づくりの力	<input type="radio"/>				
d. 学年行事・学校行事を企画・運営する力	<input type="radio"/>				
e. 保護者からの要望に対応する力	<input type="radio"/>				
f. 地域と連携・協働する力	<input type="radio"/>				
4 そのほかの教員業務にかかわる資質等について					
a. 校務における文書作成等の技能	<input type="radio"/>				
b. 課外活動を指導する力	<input type="radio"/>				
c. 防災教育・安全教育に関する知識・技能	<input type="radio"/>				
d. 授業において ICT を活用する力	<input type="radio"/>				
e. 地域教材を開発し、活用する力	<input type="radio"/>				
f. 教師として生涯にわたって学び続けようとする姿勢	<input type="radio"/>				
5 教員として、そして社会人としての基礎的素養について					
a. 教育者としての使命感や責任感	<input type="radio"/>				
b. 子どもに対する教育的愛情	<input type="radio"/>				
c. 対人関係能力	<input type="radio"/>				
d. チーム力, 協調性	<input type="radio"/>				
e. 社会性や常識	<input type="radio"/>				
f. 幅広い教養, 経験	<input type="radio"/>				
g. 豊かな人間性	<input type="radio"/>				

C. 以下の「教員に求められる資質・能力」の項目のそれぞれについて、あなたのこれまでの経験から、新任者が学部卒業時点までにどの程度身につけておくべきであると思いますか。5段階評価の該当箇所をマークしてください。

	是非とも身につけておくべき	できれば身につけておくべき	どちらともいえない	身につけておく必要はあまりない	身につけておく必要はほとんどはない
1 教科指導について					
a. 教科に関する専門知識	<input type="radio"/>				
b. 教科の授業展開・指導方法に関する専門知識	<input type="radio"/>				
c. 教材を解釈し、指導計画を作成する力	<input type="radio"/>				
d. 授業を展開していく力	<input type="radio"/>				
e. 学習成果について評価する力	<input type="radio"/>				
f. 授業を振り返り、再構成していく力	<input type="radio"/>				
2 生徒指導・教育相談等について					
a. 子どもの成長・発達についての専門知識	<input type="radio"/>				
b. 幼児児童生徒を理解する力	<input type="radio"/>				
c. 道徳を指導する力	<input type="radio"/>				
d. 特別活動を指導する力	<input type="radio"/>				
e. 特別支援教育の最新知識と指導・支援する力	<input type="radio"/>				
f. いわゆる発達障害と考えられる幼児児童生徒を指導・支援する力	<input type="radio"/>				
g. 不登校・学校不適応状態の幼児児童生徒を指導・支援する力	<input type="radio"/>				
3 学級づくり・学校づくりについて					
a. 教育の制度および経営に関する専門知識	<input type="radio"/>				
b. 学級集団を把握・理解する力	<input type="radio"/>				
c. 学級づくりの力	<input type="radio"/>				
d. 学年行事・学校行事を企画・運営する力	<input type="radio"/>				
e. 保護者からの要望に対応する力	<input type="radio"/>				
f. 地域と連携・協働する力	<input type="radio"/>				
4 そのほかの教員業務にかかわる資質等について					
a. 校務における文書作成等の技能	<input type="radio"/>				
b. 課外活動を指導する力	<input type="radio"/>				
c. 防災教育・安全教育に関する知識・技能	<input type="radio"/>				

- | | 是非とも身に
つけておくべき | できれば身に
つけておくべき | どちらとも
いえない | 身につけておく
必要はあまりない | 身につけておく
必要はほとんどはない |
|----------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| d. 授業において ICT を活用する力 | <input type="radio"/> |
| e. 地域教材を開発し、活用する力 | <input type="radio"/> |
| f. 教師として生涯にわたって学び続けようとする姿勢 | <input type="radio"/> |

5 教員として、そして社会人としての基礎的素養について

- | | 是非とも身に
つけておくべき | できれば身に
つけておくべき | どちらとも
いえない | 身につけておく
必要はあまりない | 身につけておく
必要はほとんどはない |
|-------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| a. 教育者としての使命感や責任感 | <input type="radio"/> |
| b. 子どもに対する教育的愛情 | <input type="radio"/> |
| c. 対人関係能力 | <input type="radio"/> |
| d. チーム力、協調性 | <input type="radio"/> |
| e. 社会性や常識 | <input type="radio"/> |
| f. 幅広い教養、経験 | <input type="radio"/> |
| g. 豊かな人間性 | <input type="radio"/> |

6 上記で取り上げられていないその他の資質・能力として、大学卒業時まで身に付けておくべき資質・能力があれば、その内容を【 】内に簡単に書いてください。

【
】

【
】

D. これまでの経験を踏まえて、大学における教員養成の在り方について、自由に意見を書いてください。

E. 「学び続け深化する教員」の視点からみて、採用後の教員研修の在り方について、要望等があれば自由に意見を書いてください。

F. あなたは宮城教育大学の卒業生ですか。 はい いいえ

－ アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。－

付記：このアンケートについては、個人が特定されないよう統計的に処理するとともに、個人情報の取り扱いに配慮いたします。アンケートの結果は、今後の宮城教育大学における教員養成教育の検討・改善のために活用させていただくとともに、それ以外の目的には使用いたしません。また、結果の一部については、学術的情報として専門研究雑誌等に発表させていただくこともあります。

